

シンポジウム

シリア紛争にみる

人道支援の限界と挑戦

シリア NGO が来日 * 英語→日本語逐次通訳つき

日時 2017年 **10月14日(土)** 14:00-17:00 (開場13:30)

会場 **立教大学 池袋キャンパス 14号館D201教室** (東京都豊島区西池袋3-34-1、JRほか「池袋」駅7分)

定員 **250名** 参加費無料

2011年に発生したシリア危機は、6年が経過した現在も収束の道筋は見えず、人口2200万人のうち、47万人が死亡、半数の1100万人は難民や避難民として住む家を追われる事態となっている。国際社会は、政治的解決を目指しつつも、糸口の見えない中で、国際連合や赤十字組織、国際NGOを中心に人道支援活動を実施している。しかしながら、治安上の理由から、各組織とも国際スタッフの活動は最小限に抑えられ、現場の人道支援活動や救出活動を担っているのは、シリア人やシリアのNGO、ディアスポラと呼ばれる在外シリア人による組織である。

そこで本シンポジウムでは、日本で紹介されることの少ないシリア人によるNGOの関係者を招き、シリアにおける人道支援活動の実態と課題について、シリア情勢に詳しい研究者、シリアのNGOと協働する日本のNGO関係者とともに討議する。

登壇者

ファディ・アル・ダイリ

Hand in Hand for Syria 共同創設者

青山弘之

東京外国語大学教授

長有紀枝

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科教授
／AAR Japan [難民を助ける会] 理事長

高城大吾

元AAR Japan [難民を助ける会] シリア支援担当



主催 **立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所**

共催・お問い合わせ先 **AAR Japan [難民を助ける会]**

Tel 03-5423-4511 www.aarjapan.gr.jp

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル7F

登壇者プロフィール



ファディ・アル・ダイリ (Fadi Al-Dairi) Hand In Hand for Syria 共同創設者

シリアにルーツを持つ英国人。ヨーロッパ最大のエネルギー関連会社のひとつに勤務するも、シリアの人々を支援したいと退職。シリア支援では、得意の経営や会計の分野で様々な役割を果たしてきた。2011年、シリア紛争勃発の直後に創設したHand In Hand for Syriaは、今では400人を超えるスタッフを擁し、シリア国内で活動する主導的な団体のひとつに成長した。保健、栄養、水・衛生、避難所、農業と食糧といった、幅広い分野で活動をしている。2016年には合わせて200万人以上に支援を届けた。過去6年間では、支援を届けたのは800万人にのぼる。団体HP : <https://hihfad.org/>



青山弘之 (あおやま ひろゆき) 東京外国語大学教授

東京外国語大学卒。一橋大学大学院修了。在ダマスカス・フランス・アラブ研究所共同研究員、日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター中東研究グループ研究員などを経て、2013年4月より現職。専門は現代シリア政治、東アラブ思想、宗教、歴史。編著書に『シリア情勢—終わらない人道危機』(2017年、岩波書店)、『「アラブの心臓」に何が起きているのか：現代中東の実像』(2014年、岩波書店)『混迷するシリア：歴史と政治構造から読み解く』(2012年、岩波書店)など。



長有紀枝 (おさ ゆきえ) 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・社会学部教授、AAR Japan [難民を助ける会] 理事長

1990年よりAARで旧ユーゴスラビアなど紛争下での緊急人道支援や地雷対策、地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)の地雷廃絶活動等に携わる。現在AAR理事長、立教大学教授、JPF理事等を務める。著書に『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』(2012年、中公新書)、『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』(2009年、東信堂)。



高城 大吾 (たかぎ だいご) 元AAR Japan [難民を助ける会] シリア支援担当

民間企業を経て、イギリスの大学院で開発学を学ぶ。2011年5月よりAAR東京事務局にて勤務し、福島県での支援を中心に東日本大震災緊急・復興支援などに従事。2012年2月よりケニア駐在員として給水支援に携わった後、2015年から2017年5月まで、シリア国内における人道支援活動の統括を務める。

会場

立教大学 池袋キャンパス 14号館D201教室

東京都豊島区西池袋3-34-1

JR山手線、地下鉄各線「池袋」駅より 正門まで 徒歩7分

